

沖縄科学技術大学院大学

戦略計画要約

2020-2030



OIST

OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY GRADUATE UNIVERSITY
沖縄科学技術大学院大学

「イノベーションは未知のものへの 挑戦からのみ生まれる」

シドニー・ブレナー (1927-2019)

沖縄科学技術研究基盤整備機構初代理事長 (2004-2011)

2002年ノーベル生理学・医学賞受賞



表紙：表紙の画像は、一連の四面体リングの極限から生じる半ねじれを3つ持つメビウスの帯を描いたもの。全てのメビウスの帯と同様、この表面も1つの面と1つの端しか持たない。この形状は、閉曲面から構築される複雑で結び目のある表面の階層の、これまでに発見されていなかった初めてのメンバーである。

CREDIT: MICHAEL GRUNWALD (マイケル・グルンヴァルド)、JOHANNES SCHÖNKE (ヨハネス・シュンケ)、ELIOT FRIED (エリオット・フリード)；数理学と材料科学ユニット

この文書について

この文書は、本学の「戦略計画 2020-2030」を要約したものです。本学は、「沖縄科学技術大学院大学学園法」（2009年）により発足しました。同法において、本学のミッションは、国際的に卓越した科学技術に関する教育研究の推進を図り、沖縄の振興に寄与することとされています。本学の基本理念（p.3）と戦略目標（p.32）は、本学のミッションに合致するものです。戦略目標を達成するための行動については、完全版で詳述しています。ウェブページをご覧ください。
www.oist.jp/strategic-plan

natureresearch
CUSTOM MEDIA

「沖縄科学技術大学院大学戦略計画 2020-2030要約」は、沖縄科学技術大学院大学（OIST）からの委託を受けて、シュプリンガー・ネイチャーの一部門である Nature Research Custom Media が発行しました。
<https://partnerships.nature.com>

Copyright © Okinawa
Institute of Science and
Technology Graduate
University.

無断転載を禁じます。
内容は発行時点のものです。
2019年11月

戦略計画策定のプロセス

本学の「戦略計画 2020～2030」の策定作業は、2018年8月に開始され、経営幹部・教員・研究員・事務／研究支援職員・学生から広く意見を集めることによって進められ、2019年5月に理事会承認を得ました。2019年9月以降、戦略の具体化に向けて新たな活動が展開されています。今後、具体化の推進状況や環境変化を注視しながら、発展の機会を見逃さないよう留意しつつ、進捗管理を行うこととしています。

目次

目次

- | | | | |
|----|-------------|----|------------------|
| 2 | 本学について | 18 | 世界最高水準を可能にする大学運営 |
| 4 | 学長からの挨拶 | 24 | 世界を舞台にする大学 |
| 8 | 自然環境を慈しむ大学 | 26 | 大学と経済成長 |
| 10 | 美しいキャンパスと施設 | 28 | 大学と地域文化の発展 |
| 12 | 最先端研究の推進 | 32 | 戦略目標 |

戦略目標について

関連する戦略目標は各ページの上部に表示されています。詳細は32ページをご覧ください。

- | | | | |
|---|------------------------------------|----|------------------------------|
| 1 | 世界トップレベルの大学・国際研究拠点として発展する | 9 | 最も有能な人材を惹きつける |
| 2 | 世界トップレベルの博士課程プログラムを提供する | 10 | 誰もが歓迎される開かれた大学コミュニティを作る |
| 3 | 新たな発見を経済社会へ広く波及させる | 11 | 先進的で魅力的な最先端のキャンパスを作る |
| 4 | 沖縄の社会的・経済的繁栄に寄与する | 12 | 責任ある環境保護を推進する |
| 5 | ガバナンスの卓越性を維持する | 13 | 本学の貢献を地域・国内外に発信する |
| 6 | 効率的な業務運営を促進する | 14 | 多様性、ウェルビーイング、開かれた協力的な文化を維持する |
| 7 | 沖縄での他大学・研究機関・産業界・政府とのパートナーシップを推進する | 15 | 持続可能な成長と長期的な卓越性のための計画を立案する |
| 8 | 起業家文化を創出する | 16 | 競争的研究資金・助成金・寄付を通じて資金調達を補完する |

本学の基本情報

本学は、開学から8年の間に大きな進歩を成し遂げた。
本学に関する基本的な数字と歴史を紹介する。

本学の成果

本学は、Nature Index 2019で世界第9位に位置付けられた。Nature Indexの対象ジャーナルへの本学からの論文発表数を、自然科学分野の総論文数で除した「正規化ランキング」では、本学は、プリンストン大学（米国）やスイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）のような名だたる研究機関と同列に並ぶ。



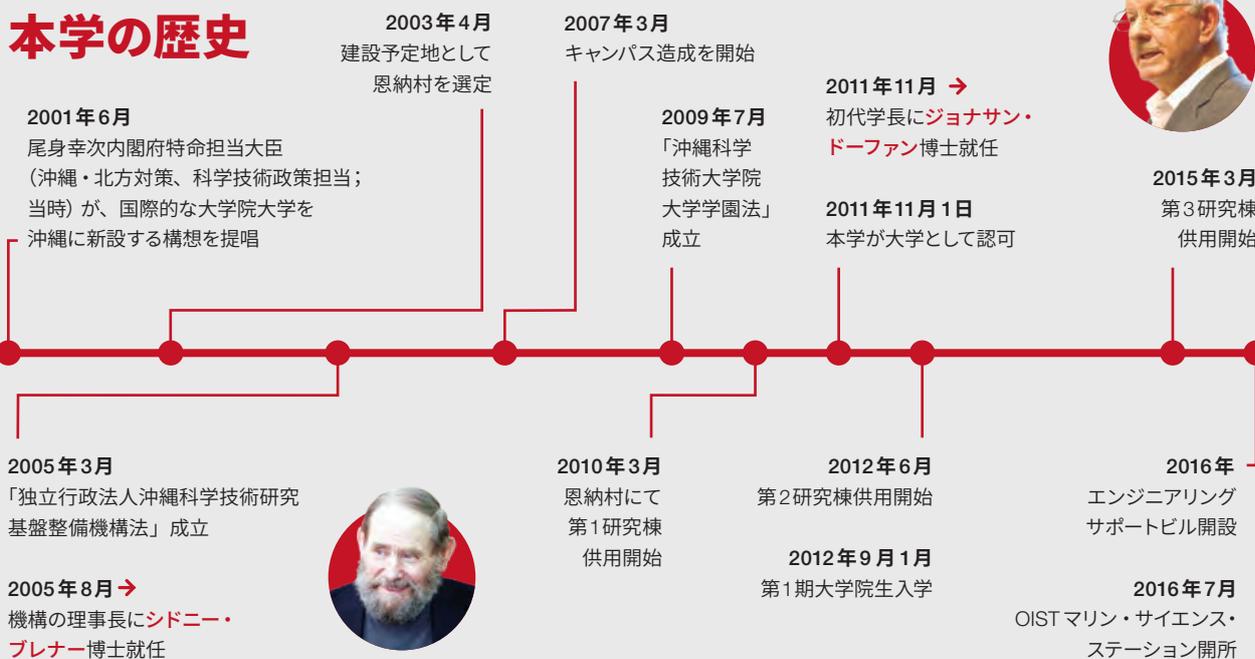
本学のミッション

先駆的大学院大学として、科学的知見の最先端を切り拓く研究を行い、次世代の科学研究をリードする研究者を育て、沖縄におけるイノベーションを促進する拠点としての役割を果たす。

本学の成長



本学の歴史



本学の ビジョン

人類のための
知の前進

本学の価値



基本理念



- 人類に恩恵をもたらす、世界最先端の学際的研究を行う機関としての地位を確立することを目指す。
- 効率的な事務部門の支援の上に、科学と教育を結びつけて、イノベーションと起業家精神を涵養し、研究・学習・共同活動の目的地となることを目指す。
- 沖縄でのイノベーションの実現にとって最適なパートナーとなり、触媒としての役割を果たすことで、経済成長と持続可能な利益を促進し、日本及び国際社会にとって重要な問題に対処することを目指す。



↑ 2017年1月
第2代学長にピーター・
グルース博士就任

2021年
内閣府が本学の
開学10年経過後審査を完了

2022年
次期5か年の教員
任用戦略の見直し

2024年
第6研究棟

2027年
次期5か年の教員任用戦略を
作成するための外部評価

2018年
第1期博士課程が修了

2019年
第5研究棟
建設準備開始

2026年
第7研究棟

2028年
第8研究棟

2030年
第9研究棟

2018年12月
本学の研究から生まれたベンチャーを
育成するためにイノベーション・スクエア・
インキュベーター (I²) を創設

2019年12月
第4研究棟竣工